文化情報

美術

■日本画家　小田倉由祈（おだくらゆき）個展「天壌の光」

和紙に岩絵の具や顔料、金箔を用い、色鮮やかに描かれた花の世界が広がる。外へ外へと花びらを八方に広げ、エネルギーを放射するかのようなユリは、強い生命力を感じさせ、光あふれる作品となっている。ユリに魅了され、ユリをモチーフに生み出された何点もの作品が。

そしてもう一つのテーマが「平和への祈りをこめて」。ウクライナやガザ、イランなど戦火が絶えない中にあって、「世界から戦争がなくなるように、苦しみ、悲しみがなくなるようにと、平和への思いをオリジナルの観音菩薩像で表現した」と言う。世界の隅々まで目を配り、苦しみや悲しみを救済するという11面観音は花に囲まれ、穏やかなたたずまいをたたえる。

◇

会期　10月19日（月）～24日（土）　12時～19時（最終日は17時まで）／**会場**　GALLERY ART POINT（東京・中央区銀座1-22-12　藤和銀座１丁目ビル６階）

「光へ」72・7㌢×60・6㌢

切り花を長持ちさせるポイント

暮らしの中に花やグリーンがあると季節を感じたり心が和みます。切り花を少しでも長持ちさせるポイントを落合生花店（東京・文京区）の落合禎さんに聞きました。

買ってきた花は積が広くなります。よく切れるハサミを使ってください。

【切り戻し】

流通事情が良くなり、かつてほど水が下がった（水分が抜けている）花はありませんが、購入してきた花は、水の中で茎の先端を斜めに切ってから生けます。斜めに切ることで水を吸い上げる面げ、水の吸い上げを良くしてやります。

【葉やつぼみをとる】

花器の中で水に浸かる部分の葉は腐りやすく、雑菌も増えるので取り除きましょう。

茎が吸い上げる量より、葉っぱから蒸発する水分が多いと、しおれる原因となります。たくさんついている葉は整理し、トゲや咲きそうにない固いつぼみも取り除きます。キクやクジャクソウ、この時期のカーネーション、ユリのつぼみは比較的咲きますが、小さすぎる場合は栄養が取られてしまうので取りましょう。

【水深は花によって】

花器に入れる水が少ない方が良い花もあります。カラーやガーベラ、チューリップなど球根の花です。茎が柔らかかったり、茎の中が空洞になっている花も、水が多すぎると茎が溶けてしまいます。水深5㌢程度を目安にするとよいでしょう。ヒマワリも同様にします。

アジサイのように水を好む花は、水圧で花がしっかり水を吸い上げるよう、茎が10～15㌢ほど浸かるようたっぷりの水を入れます。

▲キイチゴの緑と黄色のスターチス。手前のフウセントウワタが涼やか。ヒマワリ、カーネーション、ルドベキアと

◀短くなった花はリンドウを加えて小さな花器に

浅水に生ける	湯揚げできる
アイリス、カガリビバラ、キキョウ、コスモス、サンダーソニア、シロタエギク、スイートピー、スカビオサ、ストック、ゼラニウム、ダリア、チューリップ、トルコギキョウ、ネリネ、ハナカンザシ、ヒマワリ、ヒヤシンス、ブバルディア、ベニバナ、ユリ、ラナンキュラス、リンドウ、ルピナス、レースフラワー　など	アジサイ、アルストロメリア、カーネーション、キク、ケイトウ、ゴデチア、ジニア、スイートピー、ストック、ダリア、チューリップ、トルコギキョウ、ネリネ、バラ、ヒマワリ、ユリ　など

【置く場所も配慮を】

花は明るい場所に置きましょう。ただ、直射日光を避け、乾燥を避けるためにクーラーや扇風機の風が直接当たらないように。冬も同様に暖房の風が直接当たるところは避けます。

花を生きいきさせる

【水換えと切り戻し】

まだ暑さが残る時期は花瓶の水も汚れやすく、水に浸かっている部分の茎も傷みやすいので、できれば毎日水を替えます。ぬめりがあるのは傷み始めの合図。花器や茎を水洗いし、茎は水切りし、断面を新しくします。

【水揚げ】

花が弱っている時は十分に水を吸わせるため、水揚げをします。茎の先を10㌢ほど残して新聞紙で包み、たっぷりと水を張った深めの容器に立てて、数時間放置します。ユリは切り戻しし、深水に浸けておくだけで十分です。

【湯揚げ】

バラの花が下を向き、葉っぱも元気がなくなってしまった経験はありませんか？　水揚げの奥の手で、花屋では普通にやっている方法ですが、バラの上部を新聞紙で包み、茎の下の方を数㌢熱湯に15秒ほど浸けます。浸けた部分が変色しますが、その後は冷たい水をたっぷり張ったバケツなどに入れて放置し、水を花全体にいき渡らせます。

【延命剤も】

延命剤には、水を腐らせない成分や花を大きくきれいに咲かせる栄養（糖）が入っています。50倍くらいに薄めて使用します。花屋でサービスで付けてくれることもありますが、1本数百円で花屋や園芸店で市販されています。

◇

水深や水揚げの方法は花によってさまざまです（**右表参照**）。購入時に花屋さんに聞きましょう。切り戻しで短くなった花は小さな花器に生け直したり、暑い時期は涼しげな葉っぱ（枝もの）をメインにし、花を添える生け方もおすすめです。

聞き書き

母の歴史

夕張支部結成へ

北海道　久世公子（くぜきみこ）さんのお話　（5）

3101

20歳で結婚し、やっと思うように自分の生活ができ始めた頃、夕張で新婦人の結成が呼びかけられました。中学校の先生だった外尾静子さんや戸田明子さんが中心となり、準備会が発足。誘われて準備会に入りました。私の住む地域は生活が大変な人が多く、まず平和ふじん新聞（新婦人しんぶんの前身）を読んでもらいました。結成に向けて班を作り、集まりました。

1963年3月13日、新婦人夕張支部が結成され、外尾さんが会長に、戸田さんが事務局長になりました。100人ほどでしょうか。炭鉱の人の班もでき、全日自労婦人部の人もみんな入会してくれ、一緒に活動しました。班長になった私の思いは「貧乏をなくそう、みんなでがんばって良い世の中をつくろう」。それは夫婦の共通の思いでもありました。

夕張支部結成大会（1963年）

夫は、父親が下請け鉱内夫の家庭で育ち、厳しい生活でまともに小学校にも行けず、一家の稼ぎ手として12歳から土木作業に出ました。弱い者がいじめられているとじっとしていられない面倒見の良さもありました。あの頃は私も農家の田植えや稲刈りの手伝い、夏は道路の舗装工事、冬はそば屋で働き、夫婦助け合って生活しました。政治のことはよく分かりませんでしたが、いろんなものを読んだり、みんなの話を聞いたりしながら成長していったと思います。

つづく